

九州運輸局提出資料



九州運輸局

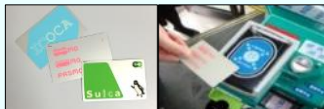
運輸と観光で九州の元気を創ります

訪日外国人旅行者数4,000万人等の実現に向けて、多言語音声翻訳システムの普及等の多言語対応の一層の促進、無料公衆無線LAN環境の一層の充実、増加する訪日ムスリム旅客の受入体制の強化等、ストレスフリーな受入環境の整備に向けてさらにきめ細やかな支援を行う。

交通サービス支援事業

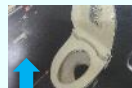
■全国共通ICカードの導入

【補助対象事業者】
鉄軌道事業者、一般乗合
旅客自動車運送事業者等



■企画乗車船券の発行

【補助対象事業者】
公共交通事業者等



■交通施設や車両等の洋式 トイレ、多機能トイレの整備



【補助対象事業者】
鉄軌道事業者、ノスタミナル事業を営む者、
国内一般旅客定期船航路事業者で旅客船ターミナルを
設置等する者、航空旅客ターミナルを設置等する者等

■多言語バスロケーションシステムの設置

【補助対象事業者】
一般乗合旅客自動車運送事業者等



■インバウンド対応型鉄軌道車両の整備

【補助対象事業者】
鉄軌道事業者



■LRTシステムの整備

【補助対象事業者】
鉄軌道事業者

■ノンステップバス、リフト付バスの導入

【補助対象事業者】
一般乗合旅客自動車運送事業者、
一般貸切旅客自動車運送事業者
(貸切バス事業者安全性評価制度の認定
を受けた者)等



■ユニバーサルデザインタクシーの導入

【補助対象事業者】
一般乗用旅客自動車運送事業者等



※新規メニュー(赤字)

旅行環境整備事業

■多言語表記等

【補助対象事業者】
鉄軌道事業者、一般乗合
旅客自動車運送事業者等



■タブレット端末の整備

【補助対象事業者】
鉄軌道事業者、一般乗合
旅客自動車運送事業者等



■交通施設や車両等の無料WiFiの整備

【補助対象事業者】
鉄軌道事業者、一般乗合旅客自動車運送事業者等



■エレベーター・スロープ等の設置による 交通施設の段差の解消

【補助対象事業者】
鉄軌道事業者、ノスタミナル事業を営む者、
国内一般旅客定期船航路事業者で旅客船ターミナルを
設置等する者、航空旅客ターミナルを設置等する者等



■ホームドアの設置

【補助対象事業者】
鉄軌道事業者



■船内座席の個室寝台化

【補助対象事業者】
国内一般旅客定期船航路事業者、
国内不定期船航路事業者、船舶
貸渡業者等

具体的な取組み

訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業 → 以下の3事業から を除いた部分。

地方での消費拡大に向けた支援事業

■観光拠点情報・交流施設の機能向上

(施設の整備・改良、タブレット端末の整備、多言語の展示設備、
案内標識・デジタルサイネージ・HPの多言語表記等、
案内放送の多言語化、無料Wi-Fiの整備)

【補助対象事業者】
地方公共団体、公共交通事業者を含む民間事業者等

■観光案内所の機能向上(カテゴリーI一部対象)

(施設の整備・改良、タブレット端末の整備、案内標識・
デジタルサイネージ・HPの多言語表記等、案内放送の
多言語化、スタッフ研修、無料Wi-Fiの整備)

【補助対象事業者】
地方公共団体、公共交通事業者を含む民間事業者等
(日本政府観光局がカテゴリーI以上の認定をした、又は認定する
見込みがある者)

■多様な宗教・生活習慣への対応力の強化

■公衆トイレの洋式便器の整備等(建替時等の洋式便器新設等も対象化)

【補助対象事業者】
地方公共団体、公共交通事業者を含む民間事業者等

■手ぶら観光カウンターの機能向上

(案内標識・デジタルサイネージ・HPの多言語表記等、
案内放送の多言語化、手荷物集荷場等の整備等)

【補助対象事業者】
地方公共団体、公共交通事業者を含む民間事業者等
(手ぶら観光共通ロゴマーク掲出の認定をした、又は認定する見込みがある者)

宿泊施設インバウンド対応支援事業

■タブレット端末の整備 ■自社サイト・案内表示の多
言語化 ■ムスリム受入マニュアル作成 ■無料WiFi
の整備 ■段差解消 ■トイレ洋式化 等

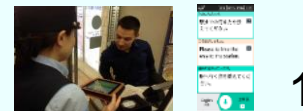
【補助対象事業者】
宿泊事業者等(複数の宿泊事業者(5以上)
により構成される団体が計画策定・申請)



旅行環境整備事業

■空港利用者の手続き効率化に向けた検討調査
■訪日外国人旅行者の要望・不満調査
■多言語音声翻訳システム(VoiceTra)
の観光関係者への利活用実証事業 等

実証事業等

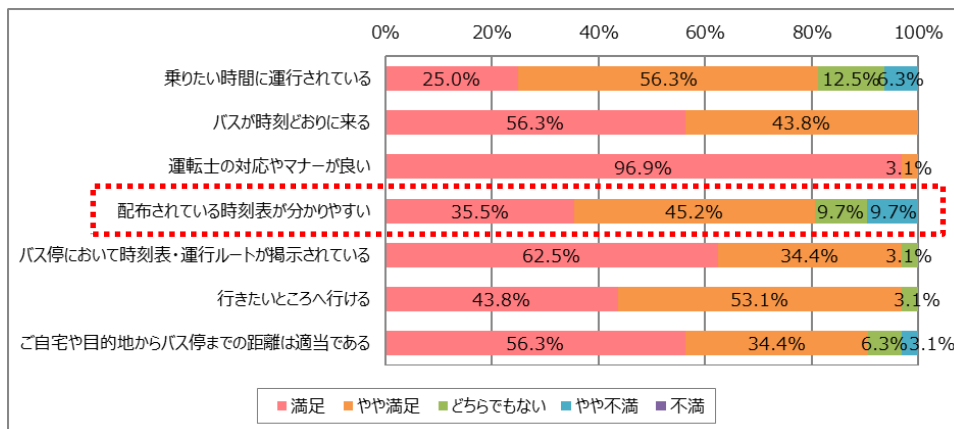


2. 公共交通に関する情報発信

- 公共交通については、事業者や地方公共団体から様々なツールで情報提供がなされている。
- しかし、それが、公共交通を利用する側から見て便利な情報となっているとは限らない。
(例:若い人は地図アプリでルート検索を開始する(バス停の名前を覚えることはない))

利用者はさまざま	(地域の方)学生、通勤、お年寄り、家族連れ、・・・ (地域外の方)出張者、旅行者(日本人、外国人)、・・・
ほしい情報はさまざま	・時刻表、行き先、所要時間、運賃、乗り方、運行情報、・・・ ・そもそもこのバスは行きたいところに行くのか・・・ ・そもそもここから最寄りのバス停の名前知らない・・・
情報提供ツールはさまざま	(紙媒体)チラシ、広報誌、バスマップ、案内図、・・・ (電子媒体)webページ、乗り換え案内サイト、アプリ、Googlemap、・・・

H29久山町・エコバス利用者アンケート調査では、「配布されている時刻表が分かりやすい」の項目の5段階評価で、「満足」「やや満足」以外の割合が他の項目と比べると多くなっている。



2. 公共交通情報のオープンデータ化の取組みについて

- GTFS (general Transit Feed Specification) とは公共交通機関の時刻表及びそれに関連する情報のオープンデータのフォーマットのこと。GTFSは10種類以上のファイルから構成されるが、必須情報は「バス停位置」「ルート」「停車時刻」「運行日」「運賃」など一部(最低、それらがあれば足りる)。
- GTFSを公開し、GoogleやNAVITIMEへ登録することで、一般利用者が検索可能となる。

一般路線バスの場合に必要な処理(イメージ)

(自社使用のダイヤ編成システムや運行委託先がGTFS書き出しできる場合)

【バス事業者】

→ 自社で使用しているダイヤ編成支援システム(内製、発車オーライ、その筋屋等)から、関係ファイルを書出し

・GTFS
・独自フォーマット

登録

【Google、NAVITIME等】

→ 受け取ったファイルをシステム入力
→ 一般利用者がバス情報を検索可能

(参考) 佐賀県の場合

→ バス停位置情報やルート情報の作成を支援
→ GTFSでの登録を支援

登録

コミュニティバスの場合に必要な処理(イメージ)

(左記以外の場合)

【自治体等】

→ 運行しているコミュニティバスについて、GTFSを自ら作成
(運行事業者がダイヤ編成支援システムを持っている場合は、システムから書き出すこともある)

・GTFS

登録

【Google、NAVITIME等】

→ 受け取ったファイルをシステム入力
→ 一般利用者がバス情報を検索可能

(稲永研究室)

→ 研究室の取組みとして、自治体と連携し、コミュニティバスのバス停位置や停車時刻、運賃等情報を作成
→ GTFSでの登録を支援

登録